

三重県消費生活センター

三重県金融広報委員会

未来を変える
お金のつかい方「エシカル消費」
－正しい金融知識を身につけよう－

エシカル消費という言葉を目にしたことはありますか？
エシカル消費とは持続可能な社会を実現するため、人や社会、環境に配慮した消費のこと。買うこと、食べること、使うことなどの消費行動は私たちの身近な存在です。今回は、ウィズコロナの生活でカギとなりうるエシカル消費について、日本消費者教育学会会長を務める東先生に話をうかがいました。

人や社会、環境に優しい
エシカル消費という考え方

「エシカル消費とは何か教えてください。」

エシカルとは直訳すると「倫理的な、道徳的な」という意味。倫理的な消費、つまり人や社会、地域、環境に配慮した消費行動をエシカル消費といいます。例えば、地産地消を意識した商品の選択や、エコ商品の購入といった行動。ほかにも、フェアトレードの商品を選ぶこともエシカル消費の一つです。公正に取引された商品を購入することで、生産者を応援できます。

無理なく続けることが
よりよい社会への第一歩

「環境や雇用などの問題解決にもつながるエシカル消費。一度きりではなく、継続するために必要なことは。」

買い物行動を急に変えることは、お金が伴うのでなかなか難しいでしょう。しかし、エコバッグの持参やムダな電気を使わない節電など、買うだけでなく、自分のライフスタイルを工夫するのは、手軽にできるはず。

ほかにも、自分の好きなものや身近なものから始めてみるのもいいでしょう。例えば、コーヒーが好きな人はフェアトレードのコーヒー豆を選んだり、魚をよく食べる人は、水産資源や海洋環境を守って獲られたことを示すMSC「海のEコラベル」の付いた水産物を選んでみる。身近なところでは、森林を守るFSCマークの付いたティッシュペーパーやトイレペーパーを選択するなど、できることから生活に取り入れてみてください。

最終的に市場に残る商品

また広義では、ものをどう使うか、どう廃棄するか、リユースできないか検討するなど、直接ものを買うだけではなく、環境などに配慮したライフスタイルも含めてエシカル消費といえます。さらに、買わないエシカルという選択肢も。フードロスにつながる過剰消費を避ける、動物福祉の観点から毛皮の消費を抑えるなど、買わないことが地球や社会への配慮につながる場合もあります。

● 金融教育とは

お金や金融のさまざまな働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考えて、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育です。

三重県消費生活センター
PRキャラクター ダンコムシ



は、自分を含めた多くの消費者が選んだものになります。つまり、一人ひとりの消費行動が経済に影響力を持ち、自身の選択によって社会をよりよい方向に導くことができます。これまででは安全・安心、品質、価格を指標に商品を選択してきましたが、これからは第4の指標として、倫理的な買い物をする「エシカル消費」の観点が重要といわれています。そのためにも、子どものころからお金を使うことの意味を考え、正しい金融知識を身につける金融教育が大切です。お金の働きを理解し、自分の暮らしや経済について深く考えることで、よりよい社会をつくることができます。金融教育は、金融の仕組みや家計管理、資産管理を学ぶイメージが強いですが、それはむしろ生き方を考えるライフスタイルの教育といえます。お金に関する適切な教育は、結果として自分の人生を大切にすることにつながります。

自らの消費行動を見直して、よりよい未来を実現する

コロナによる意識の変化が
エシカル消費を広げる力に

「ウィズコロナの時代において、買い物の仕方に関心が高まっています。」

コロナ禍をめぐって、人々の生活は一変。買い占めや企業の倒産などを目の当たりにして、「自分さえよければいい」という消費行動はとりたくなかった意識が人々に芽生えました。さらに、飲食店の時短営業や休業が増える中で、生産者を支援するための応援消費の動きが活発化。これらをきっかけに、自分の消費行動で社会を変えられる可能性を実感することができました。コロナ禍の経験から得た貴重な気づきによって、人や社会、環境を守るためのエシカル消費が自分中心になり、関心を集めているのではないのでしょうか。

エシカル消費を一過性の盛り上がりでせず、長く継続することを心がけてもらえたらうれしいです。

「エシカル消費とSDGsの関連性について教えてください。」

SDGsの17の目標は互いに関連し合っています。例えば、SDGsの目標12の「つくる責任 つかう責任」を達成するために、フェアトレードの商品を購入することにより、目標1「貧困をなくする」

人とのつながりを感じて
消費行動を楽しむ

消費行動は社会、ひいては地球さえも変える力を持っています。私たちの選んだ商品やサービスが、結果として市場を形成するということを、ぜひ意識してほしいです。自分が買ったものはどんな人が、どんな環境でつくっているのか。

商品の背景を知って、納得して購入し、大切に消費してください。その商品に関わる人とのつながりを感じること、選ぶ喜びや応援したい気持ちを見出すことができます。ぜひ、エシカル消費を楽しんで実践していただきたいです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

● SDGsとは

2015年9月に国連のサミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。SDGsでは、17の持続可能な開発目標から構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、途上国のみならず先進国も実施に取り組んでいます。

「う」や目標8「働きがいも経済成長も」、目標10「人や国の不平等をなくそう」をはじめ、ほかのさまざまな目標の達成にも寄与することができます。また、SDGsの目標を成し遂げるためには、消費者だけではなく事業者の協力が必要不可欠です。エシカル消費を意識していても、市場に商品やサービスがなければ成り立ちません。消費者と事業者が一体になって、持続可能な社会をつくることで、SDGsの達成に一步步近づいていくでしょう。



梶山女学園大学 現代マネジメント学部

東 珠実 教授

AZUMA TAMAMI

日本消費者教育学会会長。博士(商学)。専門分野は消費者行動論、生活経営学。梶山女学園大学の担当ゼミが、名古屋市が実施する大学等への消費者教育・啓発委託事業を2011年度から9年連続で受託し、2020年5月消費者庁の令和2年度消費者支援功労者(ベスト消費者サポーター章)として表彰された。